

## 1 学校教育目標

- やさしい子（豊かな心で思いやりをもち、友達と協力し合える子ども）
- げんきな子（心身ともに健康で、明るく、実行力のある子ども）
- かんがえる子（自分から進んで学び、よく考えて行動できる子ども）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子どもへの教育活動を通して、児童・保護者・地域に誇れる学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが楽しく・のびのび・安心して過ごせる学校</li> <li>・基礎基本の確実な定着を目指して指導する学校</li> <li>・人間としての生き方・あり方を学び、思いやりのある学校</li> </ul>
○児童・生徒像	○21世紀の変化の激しい時代を自らの考えにより、生き抜くことのできる児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的学習内容を習得し、さらに自らの良さを伸長させる児童</li> <li>・他者を思いやり、人間味豊かな生き方ができる児童</li> <li>・基本的生活習慣をしっかり確立できる児童</li> </ul>
○教師像	○教育公務員として、常に誇りと自覚を持つ教師 <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に研究と修養に励み、児童の実態に即した教育を行う教師</li> <li>・地域・保護者の思いや願いを自覚し、家庭・地域と共に歩む姿勢をもち実行する教師</li> <li>・子どもから尊敬される教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### <学力向上>

#### 成果

区学力調査における通過率は、国語 79.0%、算数 77.7%。達成基準を国語 4 ポイント、算数 2.7 ポイント上回った。

#### 課題

- ・区の学力調査やワークテスト等の情報を分析し、一人一人の児童がどんな学習内容につまずいているかを把握するとともに、放課後補充教室の指導効果を向上させること。また、そだち指導・夏季補充教室と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードのフル活用を図るとともに、若手研修を計画的に運営し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を完全実施する。小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年6回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

### <学級づくりと個別支援の充実>

#### 成果

外部機関や学習支援ボランティア等と連携・活用し学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導を充実し、児童の学校生活に改善が見られた。

#### 課題

- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルをフル活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担任が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

### <豊かな心と体力づくり>

#### 成果

体力調査の計画・実施・評価・改善が適切に実施されるとともに、その結果を以降の体育的活動の充実に活用した。また、外部講師の活用による授業の実施やPTAとの連携によるマラソン大会を実施した。

#### 課題

- ・特別活動部が中心となって、4年生以上で登校時間帯、南門でのあいさつ運動に取り組む。また、管理職によるあいさつ、PTAによるあいさつ運動と連携を図りながら運動を充実していく。

- ・宿泊行事も含め校外学習や外部講師を活用した授業のお実施を、各学年で充実する（全学年で合計 30 回以上の実施を基準とする）。また、体験を単元指導計画に明確に位置づけ、体験したことを子供の学びに十分に生かすように指導の手立てを工夫する。
- ・投力向上・長なわ・短なわ、外部講師を召喚する授業、外遊びの奨励については、より組織的・計画的に実施していくことが指導効果を向上させるうえで重要な課題である。3 間（時間・空間・仲間）の設定による一年間を通した体力向上を心掛け、児童の体力とスポーツを楽しむ心の育成に取り組む。

#### 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		31	32	33	34	35
1	学力向上に向けて基礎基本的事項の定着と思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	○	○	○	○	○
2	児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○

#### 5 平成 31 年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	学力向上
<b>A 今年度の成果目標</b>	平成 31 年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
国語科、算数科における基礎基本の定着	国語 80.0% 算数 80.0% 2 月定着度調査通過率目標 国語 82.0% 算数 82.0%
<b>B 前年度の取組み内容</b>	
<b>項目</b>	<b>具体的な方策</b>
学習のつまずきに応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の時間の指導を全校体制実施。</li> <li>・学習の積み残しは、担任が中心に放課後等で対応。</li> <li>・東京ベーシックドリルを活用。</li> <li>・そだち指導の実施によるつまずきを解消する。</li> <li>・ポートフォリオソフト活用研修を年 2 回実施</li> <li>・家庭学習の課題を学年で共通化。</li> </ul>
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究（国語科）各学年 1 本ずつ研究授業を行う。</li> <li>・教科指導専門員と管理職による授業観察の連携強化。</li> <li>・大仙市教育視察の報告を管理職・主幹教諭が実施。ブレのない学習指導について学力向上委員会で検討し全学級実施。</li> <li>・足立スタンダードの若手研修活用と定着</li> <li>・OJT による教員の授業力向上。</li> </ul>
中学校との連携、保育園との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「育てたい子供像」を明確に設定した小中合同研修会実施。</li> <li>・スタートカリキュラムに基づく児童の実態把握、園との職員交流研修の実施。</li> <li>・園児・児童の実態について年 4 回以上の情報交換会実施。</li> <li>・多層指導モデルアセスメントテスト完全実施。</li> </ul>
<b>C 前年度の成果と課題</b>	

**成果**

- ・区学力調査における通過率は、国語 72.5%、算数 76.1%。達成基準を国語 2.5 ポイント下回ったが、算数は 1.1 ポイント上回った。10月実施の再調査では、年度当初から比べ国語 4.7 ポイント向上したが、算数はほぼ横ばいであった。
- ・国語・算数の足立スタンダードとしてノート指導と番所計画の定着が見られ、工夫してノートをとる児童が以前より増加傾向にある。
- ・学習規律の共通化を図り指導した結果、落ち着いて学習に取り組む児童が増加傾向にある。

**課題**

- ・放課後補充教室の回数を確保し、担任や学年による個別指導の定着を図る。
- ・学年学級ごとの差が見られる。より組織的な指導体制を確立する。
- ・理科・社会科の足立スタンダードについて定着を促す。
- ・個に応じた問題集を充実するなど、個別指導の工夫改善に取り組む。
- ・MIM を完全実施し読みの指導を充実する。

**D 今年度の目標実現に向けた取組み**

項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成 31 年度 学力向上アクションプラン」参照		

**重点的な取組事項－ 2**

児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。

**A 今年度の成果目標****達成基準**

児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。

保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答 90%以上

**B 目標実現に向けた取組み**

項目	達成基準	具体的な方策
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決</li> <li>・開発的教育相談的手法を取り入れ、自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。</li> </ul>
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の施設点検</li> <li>・施設の不備に関する早期改修</li> </ul>
あいさつの徹底	元気よくあいさつができる児童 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶（毎日）</li> <li>4年生以上によるあいさつ運動（蒲原中学との連携を含む）</li> <li>来校者へのあいさつを各学年で指導</li> </ul>

<b>重点的な取組事項－３</b>		保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>
保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	・授業参観、保護者会の内容の改善充実
P T Aや開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	・各部活動への協力 ・各学年の活動との連携
体験的学習場面の設定	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年5回以上	オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進 P T A・開かれた学校づくり協議会との連携による体験的学習場面の設定